

# 畿山河

## 第六號

平成5年6月1日

発行

社団法人 沼津牧水会

### 目次

波濤をこえた	
牧水の白扇面	2
牧水片々(その2)	4
沼津牧水会の足跡⑤	6
明石海人文学展	9
サロン音楽の夕べ	10
第39回牧水祭	
碑前祭・芝酒盛	11
短歌大会	12
雛の歌会	13
文化講座	14
平成4年度事業報告	15
定款・後記	16

# 波濤をこえた牧水の白扇面

中尾 勇

(前三島市教育研究会長・若山牧水研究者)

沼津で牧水ゆかりのなじみの店といえば、雑誌「創作」を印刷した耕文社と、牧水会の数多い書や色紙を表具した沼津市下本町二一の古美術商の温古堂とが双璧ということになる。

沼津の温古堂から別れた田中大三郎さんは東京の港区青山の住友ビルで、(⊕)温古堂を経営されて美術商として一流の店になられている。住居は沼津市御幸町一三六ノ三である。

その幅広い商取引の核には若山牧水への傾倒と今ひとつ三島の古刹龍沢寺の高僧であった山本玄峰老師の教えや数多くの書への心酔がそのバックボーンとしてある。

沼津の温古堂のお嬢さんとして他家へ嫁がれた沼津市本白銀町四八二番地にお住まいの石井とし子さんは温厚な人柄のおっとりとした品のいい人である。大正十四年以降、牧水の人柄と心を慕い続けている一途な人である。



牧水を語りあう右から田中大三郎さん、石井とし子さんと筆者

石井とし子さんが牧水のあたたかい人柄にふれたのは、まだかわいなおキャンな女子学生のところ、学友と二人で千本松原で遊んでいるときに、石井さんのいう「牧水さん」に声をかけられる。松籟の微風のなかでお話をかわしあってから、牧水の散策のときには時間をみはからって、たびたび話を楽しみあっている。その上、温古堂に表具を頼んだ牧水さんの家に、石井さんはいそいそと幾度も届けにいったり連絡を喜んで頼まれたりしている。沼津市本字南側六十一番地の現沼津市立第二中学校西北側にあつた牧水の新居にもごく自然に親しんでいる。牧水に会えた日々は、何ともいえない幸福感に包まれている石井さんのうら若き乙女の時代である。

石井さんは、結婚をするとき両親から何か記念になるものをと言われて、紅かねではなくって牧水の揮毫のある白扇面に魅了されて、当時一円五十銭で買ってもらっている。

その白い大柄の末広には、  
「いかなればこひのはじめにかくばかり  
さびしきことをおもひたまふと 牧水」  
の歌が揮毫されている。この歌は牧水の明治四十三年四月、東雲堂発行の第三歌集「別離」のなかに、  
「いかなれば恋のはじめに斯くばかり

寂しきことをおもひたまへる」とある歌である。

石井とし子さんは、それ以外に短冊で、みじか夜のいつしか更けて此処一つ

あけたる窓に風の寄るなり  
咲きさかる芍薬の花はみながらに

日に向いさけり長楽寺の庭にへ  
石こゆる水のまろみを眺めつつ

こゝろかなし秋の溪間に  
「みじか夜の」の歌は第十三歌集『くろ土』のなかの歌で白地に金泥の短冊。「咲きさかる」の歌は第十五歌集『黒松』のなかでは「咲き盛る芍薬の花はみながらに日に向ひ咲けり花の明るさ」とあって、水色に金泥の散った短冊。「石こゆる水の」の歌は、第十一歌集「石越ゆる水のまろみを眺めつつこゝろかなしも秋の溪間」の歌で、赤字に金泥の散った短冊である。いずれも石井とし子さんの今となると貴重な宝物である。

石井さんが所有する短冊には珍しい牧水の歌があつて、「わが家上棟式の日、服部おばア様を招きて」と詞書があつて、

「家をわがけふ打ち建て今は早や君が  
よはひにあゆかれとこそ 牧水」

とする歌があつて、大正十四年八月四日、牧水の家の新築の上棟式の日、近所から手

伝いにきた服部さんのおばあちゃんに、ありあわせの白い包紙を幅広い短冊型にきつて即興の歌を書いたもので、牧水の歌集のなかには見当たらない歌である。

牧水の人間味をしのぶ石井さんは、この変則のまさに珍品の色紙を入手し、大正・昭和・平成と心のささえとしてきている。

石井さんはその後、結婚をされて夫君と共に、天津、上海、満州（現中国東北省）に新天地を求めた。そして敗戦で生命からがらで沼津にもどつてこられているが、夫君と石井さんの親友の方が、当時の国民党主席蔣介石の奥さんの宋美齡と親交があつて、後日、引揚げのとき、若干の日本への荷物搬出を特別に許可された。それで、石井さんが中国大陸各地に心の拠りどころとして持ち歩いていた、牧水の揮毫のある白扇子が没収されていたことを思いだされて、特別にこれを厳格に限定された持出し品のなかに加えて持ち返つて石井さんに届けられている。石井さんが感動した様子は想像に余りあるものがある。

今も、本白銀町の石井さんの居間にこれらの色紙は宝物のように飾られて、石井さんにはありし日の牧水に語りかけるかのようにこの歌を口ずさんでおられる。

石井さんや田中大三郎さんとも幾度もお会

いして玄海灘の波濤をこえて、本当に奇跡的に石井さんと邂逅（かいこう）をした牧水の扇面にロマンの心がうづく、真率に牧水の心情に憑（つ）かれ続けた石井さんの心根は今も美しくみずみずしいものがある。



玄海灘を往復し波濤をこえた奇しき牧水揮毫の白扇子

# 牧水片々（その二）

## 父子旅

若山旅人



牧水は私を連れてひと月半もの永い間旅をした事がある。それは兩名にとって生涯唯一の父子旅であった。之を書いて置こう。

それは大正十三年（一九二四）三月八日から翌四月二五日迄の四五日間九州往復の旅で、牧水は私を連れて故郷坪谷の生家に帰り、母マキを沼津の家に誘う為の旅だった。今から七十年昔の事である。「こんどの旅」と題する散文にも牧水は次の様に書いている。

——三月八日午前六時、沼津駅を発った。長男旅人を伴うての旅立であった。祖父の墓に詣らせ、まだ見ぬ父の古里を見せて置きたいからの思ひたちであった。そして彼にすめさせてその祖母をこの沼津迄伴ひたい謀り事もその中に含まれていた。——

私達はこうして、春着の淡グレーのインバネス（コート）に羽織袴姿の父と、仕立ておろしの久留米緋のつつ袖姿に下駄ばきの九歳の息子と、よそ目には珍妙な父子の旅は始まったのである。小学校三年から四年に上る端境期だった。三月に入って牧水は息子の通う

楊原村の小学校に長期間休ませる交渉に行っている。当時まだ教室の窓も紙障子だった頃の小学校である。校長先生も担任の先生も双手を挙げての大賛成だったよとは牧水の話だったが父の事だから真偽の程は判らない。とに角大変な休ませ方を強行したもので牧水でなければ考えつかぬ仕儀であった。

当日はよく晴れて暖かだった。生れて初めて乗る青いビロードを張った二等車の乗心地が素晴しかった。牧水は前出に続いてこう書いている。

——旅慣れぬ子供には六・七時間以上の汽車に耐えさせたくなく、且つ彼をして四方の風物を楽しみます為に、一切夜行列車を排したいと思いきめて——その日の旅程は名古屋泊となり、こうして二人の旅は際限なくゆっくりしたものに企画され、これはある面牧水の腹心算<sup>づもり</sup>だったに違いない。疲れずゆっくりと旅の酒を楽しむと云うのが本心でもあったのだろう。とに角今ならばひと晩で行ける旅を牧水はひと月半もかけた次第だった。

——つづく——

#### 大正十三年三月発行の「創作」より転載。

小生は来月十日頃から九州地方へ旅行することになってゐます。それは長崎市要町十一高嶋儀太郎方長崎創作社主催で行はるゝ故中村三朗君の三周忌に出席するためで、それを済ませて郷里日向へ満十一年目で帰省して老母に逢ひ、亡父の十三周忌を営むためであるのです。長男旅人を伴つてゆきます。

途中あそこにも此処にも寄つて其処の人たちに逢つてゆきたいのですけれど、今度は一切失礼します。この一、二ヶ月間の酒でひどく身体を痛めているからです。顔を合わせればどうせたゞでは済むまいし、やり始めれば中途でよす事が出来ぬ性分だからです。どうか皆悪しからず思つて下さい。子供連れですから汽車に飽かせぬ様二三ヶ所には途中下車して突然其処の人を驚かす事が無いとも限らぬかどうか右様の調子で宜しく取り扱つて下さい。今度の旅行で少し性根や生活法を変へて来やうと思つています。

# 沼津牧水会の足跡⑤

足跡の連載も第五回目となった。この連載は、三十年を超える沼津牧水会の歴史を折りに触れては記録し、残してくれた会員の歌人、青木朝子さんによるものである。

さて、前回で昭和五十四年までを了え、今回は五十五年からである。この辺りになると、益々皆様に身近な記事になっていくと思う。なお、この資料は、会の歴史を知るに大変良いと思うのでご精読をお願いします。

## 第二十七回 牧水祭 昭和五十五年

○短歌大会 九月二十八日 午前十時三〇分より

愛鷹公民館

出詠料五〇〇円

詠草数二八五首

特別選者講師 上田三四二氏

出席者 一七六名

入賞作品

牧水賞(選者選第一位)

わが家にながく掲げしクレヨン画えがきし娘の

嫁ぎてゆきぬ

砂山ミユキ

市長賞(互選第一位)

自我つるときはきりりと髪結びて鏡のなかの

われとま向ふ

池田きよ枝

市議会議長賞(互選第二位)

亡き妻の名を幾度か喉に消し新しき妻呼ぶに馴

れきし

小野 直江

商工会議所会頭賞(選者選第二位)

柔道衣汗に重きを洗ひつつこの道長き夫を思へり 望月 婦美

観光協会々長賞(選者選第三位)

手摺れせし鍵の木札はいくたりを知りきしならむわれも去りゆく 藤田 忍

教育長賞(互選第三位)

たしなめを言うには老いし母なればぐちをそのまゝうなづきて聴く 佐野 利夫

東海短歌賞(互選第四位)

腹ばいて飲む湧水の底の辺に蟹のはさみのうす紅ゆらぐ 向笠 律子

山脈短歌会賞(互選第五位)

迎え火を焚く間あなたに会うための畑に日やけし顔を装おう 萱島 例子

沼津朝日賞(互選第六位)

青畳替えたる部屋にしばらくは妻と語りぬ客の如くに 鈴木 実

マルサン賞(互選第七位)

釣糸の大きく描く孤のなかに戻りし夏の雲の峯湧く 斉藤 俊夫

選者賞第四位以下の作者

第四位長田綾子・第五位定石栄・第六位塩谷千鶴子・第七位鈴木勝子・第八位伊藤百合子・第九位小松甲子夫・第十位田村亀吉

○碑前祭 十月十二日 午前十一時

千本歌碑前

庄司市長をはじめ約四〇〇人が参列  
来賓庄司市長・桑原教育長の挨拶のあと、旅人氏の献花・献酒、大悟法氏の朗詠、沼津合唱団「幾山河」外、つづいて芝酒盛、沼津太鼓、詩吟、民謡踊り、参加者も共に輪に加わって三時近くまで楽しんだ。

○牧水の夫婦歌碑 乗蓮寺境内に建立(八月十九日)

聞きぬつつたのしくもあるか松風の今は夢ともうつつともきこゆ 牧水

古里の赤石山のましろ雪わがふる春のうみへより見ゆ 喜志子

○牧水歌碑 下田市須崎恵比寿島に建立(九月七日)

友が守る灯台はあはれわだなかの蟹めく岩に白く立ち居り

## 第二十八回 牧水祭 昭和五十六年

○短歌大会 十月四日 午前十時三〇分より

沼津市労政会館

出詠料一、〇〇〇円

特別選者講師 武川忠一氏 「まひる野」

出席者 一七〇名

入賞作品

牧水賞(選者選第一位)

星一つ競ひ合ひたる兵の目を酔へば敷きて夫の  
老いゆく  
菊地 ひで

市長賞(互選第一位)

諍ひのあと寂しき夜の更けを寝入りし夫の手に  
触れてみる  
木下ふみ子

市議会議長賞(互選第二位)

牧水賞作品に同じ  
菊地 ひで

教育長賞(互選第三位)

気むづかしさつものりし夫をさり気なくビールに  
誘ふ吾子の大き背  
大久保晴江

商工会議所会頭賞(選者選第二位)

稀釋せし農薬は桶に澄みゆきて雲の形をさだかに  
映す  
山本真寿美

観光協会々長賞(選者選第三位)

シャッターを降ろせば商いより解かれ菊の灰汁  
しむ掌を洗いおり  
海瀬 みつ

東海短歌会賞(互選第四位)

薄湿る朽葉踏みつつ継がむ子も無き杉山に独り  
柴刈る  
時見マリヤ

山脈短歌会賞(互選第五位)

軍毛布吊りて汝を生みし朝の節穴射しくる光を  
忘れず  
塩谷千鶴子

沼津朝日賞(互選第六位)

山百合は刈り残されて里人の心根やさし古墓の  
道  
伊藤百合子

マルサン書店賞(互選第七位)

商工会議所会頭賞に同じ

選者賞第四位以下作者名

第四位小野艶子・第五位佐藤とし江・第六位長  
田純・第七位鈴木まさ子・第八位芹沢君代・第  
九位川口さかゑ・第十位佃春夫

山本真寿美

○碑前祭 十月十一日 午前十一時

千本松原歌碑前

沼津市長庄司辰雄・桑原教育長の挨拶のあと旅  
人氏の献酒・献花、大悟法氏の朗詠、沼津合唱  
団「幾山河」外、芝酒盛、沼津太鼓、詩吟、民  
謡踊など。約四〇〇名出席。

○「沼津牧水記念館建設発起人会」発足

沼津牧水会の呼びかけにより、五月十八日沼津  
牧水記念館建設発起人会が発足。九月十六日二  
六五名からなる発起人会の総会が開催され、十  
月一日を期して長年に亘り懸案であった沼津牧  
水記念館建設のための募金活動を開始。

## 第二十九回 牧水祭 昭和五十七年

○短歌大会 十月三日 午前十時三〇分より

沼津市民文化センター大会議室

出詠料 一、〇〇〇円

詠草数 二一二首

特別選者講師 岡井 隆氏(未来選者)

出席者 一四〇名

入賞作品

牧水賞(選者選第一位)

山なみのうつつとはるか遠き午後マクベス夫

人をはげしく語る

市長賞(互選第一位)

此の家に根つきゆくごと小さな花壇に嫁の菊  
苗育つ  
山中さち子

寺田 桂子

市議会議長賞(互選第二位)

やり場なきおもひに耐へて地下足袋を強くふみ  
しめ夕べ畑打つ  
益田 一江

教育長賞(互選第三位)

ころもち瘦せしか入社浅き子が休みのひと日  
炬燵に眠る  
野田世希子

商工会議所会頭賞(選者選第二位)

鮎を焼く夫が手に割る樫炭の音の冷え冷え冴ゆ  
る宵かも  
板垣 勝子

観光協会々長賞(選者選第三位)

日にひとつふたつが咲ける夕顔のうつくしきこ  
とば賜はるごとし  
芹沢 君代

東海短歌会賞(互選第四位)

うつし世のならわしかなし足萎えの夫の柩にわ  
らじ添えたる  
志太 きく

山脈短歌会賞(互選第五位)

建国記念日われためらは高だかとひとり日の  
丸かかけて祝ふ  
横江 ふみ

沼津朝日賞(互選第六位)

あたらしき職場の夢か耳馴れぬ敬語など言ふ夫  
はねごとに  
前田 鉄江

マルサン書店賞(互選第七位)

日付のみしるせし日記の空白にくらき思ひのい  
まだこもれる  
室住 みや

選者第四位以下の作者名

第四位谷梨影・第五位時見マリヤ・第六位小野  
美津子・第七位木村竹代・第八位杉本達也・第

九位池田きよ枝・第十位高木桐子

○碑前祭 十月十日 午前十一時

千本松原歌碑前

庄司市長・桑原教育長挨拶、旅人氏の献花・献酒、大悟法氏の朗詠、沼津合唱団の「幾山河」外のと芝酒盛、沼津太鼓、詩吟、民謡踊りなど。約三〇〇名参加。  
甘酒茶屋（転氏提供）も開かれた。

### 第三十回 牧水祭 昭和五十八年

○短歌大会 十月二日 午前十時三〇分より

沼津市民文化センター

出詠料 一、〇〇〇円

詠草数 二二二首

特別選者講師 岡井 隆氏

県歌人協会高嶋健一氏、不識書院の中静勇氏の特別参加を得て、出席者一三〇名余。

入賞作品

牧水賞（選者選第一位）

裸木の細枝夕風に撓めるを見つし一人への思い遠のく  
勝間田一子

市長賞（互選第一位）

穂花匂ふ青稻刈り伏せ滅反の墓標のごとき表示を立てる  
長藤 幸治

市議会議長賞（互選第二位）

厨の灯消して夜業の座につきぬ野菜かごよりこほろぎの鳴く  
渡辺 まつ

教育長賞（互選第三位）

限られし父の命をききむと点滴は落つ陽にひ

かりつつ

商工会議所会頭賞（選者選第二位）

遠き夏黙し草とる母が背を夕日寂かに包みてありき  
久保田博子

観光協会々長賞（選者選第三位）

手を振りて呼べばこたえて手を振りぬ昏るる遠田に稗抜く友が  
土屋 信子

東海短歌会賞（佐藤茂正選）

少年が語りし王国ブータンを地球儀に見てより夏の夜更ける  
児島 あき

山脈短歌会賞（互選第四位）

電卓もレヂも備えず老夫と子の継がぬ店日日を商う  
海瀬 みつ

沼津朝日賞（互選第五位）

診察の結果しかとは知らされず量なす薬渡されて来し  
池田きよ枝

マルサン書店賞（互選第六位）

踏みしめる足裏くの字にゆがませつ幼は歩みのひとつをはこぶ  
大岳さち子

選者選第四位以下の作者名

第四位板垣晴巳・第五位三浦征江・第六位植松法子・第七位辻千代子・第八位渡辺綾子・第九位長田綾子・第十位小野美津子

○碑前祭 十月二十三日 午前十一時

千本松原歌碑前

沼津市長庄司辰雄氏、桑原教育長挨拶ののち、旅人氏の献酒・献花、大悟法氏の朗詠、沼津合唱団「幾山河」外、芝酒盛へうつり沼津太鼓、詩吟、民謡踊りなど

### 鳥寄せの松を詠う

千本公園牧水歌碑近くにある銘木、三百年の歴史を秘めた「鳥寄せの松」が枯れてしまったことが去る昭和五十四年の第二十六回牧水祭・碑前祭で話題となり、沼津牧水会では、もう伐る以外にないといわれる長年親しんできた、この老松の死を惜しみ「鳥寄せの松を偲ぶ歌」を一般から募集したところ、老松へのはなむけとする詠唱二十二首が寄せられた。ここにそのうちの九首を紹介する。

必滅のことわりかなし鳥寄せの松はしきりに葉をふりこぼす  
青木 朝子

いっぽんの老ひ木のいのち王の死のごと極まれり風にふるへて  
上田 治史

名木もマツクイムシに負を取りはえあるみどり名残り惜しかな  
大沼トシ子

汝れは創（きづ）そのものの貌（かほ）紺青の昏れを立ちたりへ鳥寄せの松（いのち）岡本 淳子

戦災も共に耐へにし老松の生命（いのち）終ると聞くは悲しき  
落合 玉枝

鳥寄せの松截らるるは沼津市民一人一人の痛みと思え  
川口 和子

人の世もいつか枯れゆくものなれど今すこし待て鳥寄せの松  
清水 淳

いとかくて熄（や）みぬる松の木魂とも濤の音さへあはれなりける  
寺田 桂子

虫ばまれ明日は伐らるる老松を人間（ひと）のみならず神も悼まむ  
横江 ふみ



# 明石海人文学展

川口和子

明石海人文学展は、平成四年度の沼津牧水会企画展として、六月九日（海人忌）より七月五日（海人誕生日）までの約一カ月間、牧水記念館ラウンジにて開催された。

明石海人は明治三四年（一九〇一）沼津に生れたが、二十五歳のころ、ハンセン病となり、妻子と別れて療養生活に入った。

それから昭和一四年（一九三九）三十七歳で夭折するまでの僅か数年の間に、数々の優れた短歌を作り慟哭の歌人とも言われ、歌集「白描」は海

人文学の傑作との評価を得て、当時ベストセラーになった。

文学展には、その「白描」はじめ、自筆の色紙、未公開の歌稿や日記、原典と関連図書を出展順に配列した。そのかたわらには、遺愛の万年筆も添えて置かれた。

沼津商業学校時代の写真をもとに描かれた海人の肖像画、また朝日新聞「折々のうた」に掲載された短歌二首

シルレア紀の地層は沓きそのかみを海の蠅の

我も棲みけむ

さくら花かつ散る今日の夕ぐれを

幾世の底より鐘の鳴りくる

に大岡信氏の解説文を入れて壁面にパネルで呈示した。

陳列した主な書籍と出版年を記す

と

「楓蔭集」（昭和十二年）・機関

誌「愛生」（昭和十二年十三年）・

「新万葉集」（昭和十三年）・歌集

「白描」（昭和十四年）・「海人遺

稿」（昭和十四年）・「瀬戸の曙」（昭

和十四年）「明石海人全集」上下（昭

和十六年）・「日本の本の癡者に生れ

て」（昭和三十一年）・「明石海人

全歌集」（昭和五十三年）・「慟哭の歌人」（昭和五十五年）

その他の参考書籍は、会場中央の大テーブルの上に並べて、誰でも、自由に手にとって閲覧できるようにした。

書簡展示のケース内には、「日本歌人」主宰の前川佐美雄、「小島の春」の著者小川正子、服役囚人歌人の湯浅薫から、それぞれ海人に宛てた親書を並べ、交友関係を示した。

また失明に備えて大きな文字で転写した、唐詩選、万葉集、子規や左千夫の短歌などのノート類、海人自身の蔵書等。なお会場内の展示品の間は車椅子で通れるよう配慮した。

明石海人が苦患を克服して文学に打ち込み、「自ら燃えなければ何處にも光はない」との心境に至るまでを理解し易いように、会場の壁には、当時の長島愛生園の生活や歌碑の写真も掲げた。

入館者は、北海道や東京、岡山など全国に及び、熱心に二度三度足を運ぶ人もあった。

尚、会期中に「明石海人を語る」と題して、村松武司氏を講師に、記念講演会を催し、聴衆に深い感銘を与えた。





# サロン音楽の夕べ

## 男性コーラス

▼ 夢鳴群 7月18日(土)18:00~



## ▲パーカッションの妙技

松倉利之 5月9日(土)18:00~



## ◀シリーズ〈日本のギタリスト〉II

佐藤紀雄 8月1日(土)18:00~  
(伊藤千里撮影)

## アコーディオンコンサート

▼ 御喜美江 3月28日(日)18:00~



## ▲コントラバス・ワンダーランド in 沼津

溝入敬三・溝入由美子 (オーボエ)

12月12日(土)18:00~

(伊藤千里撮影)



沼津太鼓育成保存会の熱演

## 第39回沼津牧水祭 碑前祭・芝酒盛

一年中で一番しのぎやすい秋、しかも風のない落ち着いた雰囲気、漂う千本浜公園の牧水歌碑前にて恒例の第三十九回沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛が十月十八日(日)午前十一時から開催された。

東海庵青龍氏の献茶、林茂樹牧水会理事長の挨拶、五月女武沼津市教育長の祝辞のあと、牧水長男、若山旅人氏が献酒・献花に続いて挨拶された。司会は金子安夫碑前祭実行委員長が務め、牧水を偲ぶ約八百人の参加者で会場は溢れた。中学生短歌コンクール表彰が本年は加わり、続いて沼津合唱団の「幾山河越えさりゆかば——」「しらたまの歯にしみとほる——」などの合唱と花柳稔師の日本舞踊が披露された。地酒「牧水」の鏡割りで芝酒盛がはじまり沼津の秋の風物詩を飾るにふさわしい和やかなムードで酒が酌み交され、おでんや焼きそばが供された。その間、沼津太鼓育成保存会、沼津松波会煙火太鼓や岳心流沼津愛吟国風会の詩吟などが演じられた。短い秋の午後、瞬間に過ぎ去り、名残り惜しげに今年の会もお開きとなった。(金子安夫)



沼津合唱団による牧水の歌



挨拶される若山旅人氏

# 第三十九回 沼津牧水祭短歌大会

恒例の沼津牧水祭短歌大会が、十月四日(日)常盤町自治会館に県歌人協会会長高嶋健一氏を迎え開催された。

出詠歌二百三十九首、当日出席者百五十人で、夏を思わせるような暑さのなか、まず牧水記念館特別展の「明石海人文学展」にちなみ制作されたビデオが上映され、反響を呼んだ。続いて、高嶋氏の「歌人、若山牧水」と題する講演があり、午後は選歌、互選歌、続いて出席者の作品一つ一つについて懇切な批評がなされた。

全体的な作品の傾向について、高嶋先生は「応募者は例年より少なかったが質はよかった」と評価。牧水賞入賞の三作品に関しては、「人生のひとコマと、心のひだを口数少なく、屈折した形でうたいあげているが、深い思いがこもる」(二席)「言葉が生きている。力強さがあり、調べが張っている。イ音(い、きなど)を多く用いることで力強さが出ており、映像がくつきりと浮かぶ」(二席)「『ふるさと』の一語によりかかるところがあるが、共感できる」(三席)と評していた。

選者賞と互選賞の上位入賞者は次のとおり。

○牧水賞一席  
はうむりし夢の一ひら透けるまで月満ちてまた  
齢かさねたり 渋谷摩利子

○牧水賞二席  
石廊崎の荒き潮うしほに輝きて羽もつ魚は陽に向き

てとぶ 久保美代子

○牧水賞三席  
幼名を老いたる今も呼ばれてふるさとついに  
出づることなし 我妻よし江

互選賞

○市長賞

諍いて距離おく妻とわれのシャツ列び干されて  
風に腕組む 浅井不二雄

○市議会議長賞

双手もて包めば君の麻痺の手は動かぬままにぬ  
くみ伝ふる 加藤寿美枝

○教育長賞

幼名を老いたる今も呼ばれてふるさとついに  
出づることなし 我妻よし江

○商工会議所会頭賞

倒産のビルの垣根に昼顔の明日待つ蕾一つふく  
らむ 塩川 立子

○観光協会協会長賞

石廊崎の荒き潮うしほに輝きて羽もつ魚は陽に向き  
てとぶ 久保美代子

○沼津朝日新聞社賞

全力をつくしてメダルに届かざりし選手がプー  
ルに目を閉ちて浮く 桜井 光子

○マルサン書店賞

またひとつ思い出消して故郷の新しき道白く統  
きぬ 伊勢 幸子



高嶋健一氏の講演

# 第五回 雑の歌会

平成5年3月6日 午後1時30分

沼津市若山牧水記念館 会議室

講師：片山静枝氏



沼津牧水会の雑の歌会は第五回を数え、静岡の片山静枝氏を講師に迎えて三月六日の午後、沼津市若山牧水記念館において行われた。出詠歌数九四首、出席者六二人。

暖かな一日で、記念館の見物の一つの「沼津垣の上の富士」も終日見えて、いい歌会日和であった。会の中味も、片山静枝氏の優しい心遣いに満ちた、それだけで的確な指摘の歌話に、膝を交える和室の雰囲気もあって、快い一時を過ごした。

選者選の五首を紹介する。(一)内は評の一部。  
鉢巻きに鱗光らす若者をさいごに漁港の献血終る

(背景に皆との生活感が生きている)

真島 正義

守り札思はず鍵を胸に下げ下校の少女額あげて過ぐ

(少女は少女に、ひとつの現代風景)

生傷が古傷になる年越しの豆まきの豆ハリハリと食む

(上句は心理的な：下句かわいた感性)

馬も牛も羊も遊ぶみどり野にひとつ走ればみな風の中

(下句がこち良い。羊はとる)

バーベルを持ち上ぐるごときかたちして奈緒子はじめて立ちあがりたり

(楽に歌っているようで、バーベルを持ち上げる形、未来を作る形、心情をこめて、すきな作品)

以下、出席者の作品すべて

に短評して、二時間の余を

過ごした。初め読んだ時は、

説明的な歌が多いように感

じたが、よく読むとどの作

品も、确实にものを掴んで

いて五首にしぼるのに苦勞

したと言ひ、作品に即して

の歌話は、説得力があつて

参会者も等しく頷きながら

聞かされていた。例えば(仰

向きて採る伊予柑に夕陽射

し黄金の毬ときらめき揺る

る)について「ポーズから

入ると一首が説明的になる」

と言う評など納得させられ

るものがあつた。

(須永秀生)



熱心に聞きいる参会者

西山 幸枝

田伏三枝子

富田 隆子

福西美枝子

# 文化講座



## ◀ 第一回文化講座

「町名の由来を通し沼津を知る」

平成4年6月6日(土)14:00～記念館会議室

元駿河図書館館長 辻 真澄氏

## 第二回文化講座

「明石海人を語る」

平成4年6月14日(日)14:00～常盤町自治会館

新日本文学会会員 村松武司氏



## ◀ 第三回文化講座

朗読の夕べ

宮沢賢治「よだかの星」「なめとこ山の熊」

平成4年11月7日(土)18:30～記念館ラウンジ

伊藤弘子さん



## 第四回文化講座

思い出の生涯学習「唱歌童謡の旅」

平成5年3月13日(土)18:00～

記念館ラウンジ

元沼津市立沼津高等学校長

山本信一郎氏



# 平成4年度事業報告

総会 5月8日(金) 19:00~20:05

理事会 第1回 4月12日(日) 18:00~19:30  
第2回 5月8日(金) 17:30~18:50  
第3回 5月31日(金) 18:00~19:30  
第4回 7月9日(木) 18:00~19:20  
第5回 9月25日(金) 20:30~20:50  
第6回 12月6日(日) 17:30~19:00  
第7回 3月14日(日) 17:30~19:30

館報発行  
第9号 4年10月15日  
第10号 5年3月1日

会報発行  
第5号 4年7月1日

## 調査研究事業

「明石海人」の調査 岡山県邑久 長島愛生園 7月18日(土)~19日(日)  
川口理事, 八十浜監事, 渡辺和彦, 岡野久代, 藤巻修一  
「牧水サミット」への参加 宮崎県東郷町 11月11日(水)~12日(木)  
林理事長, 小野信義(市教委), 勝又十枝  
「東京牧水会」への参加 宮崎県東京ビル 11月14日(土)  
金子理事, 川口理事, 渡辺和彦, 勝又十枝

## 沼津牧水祭 (第39回)

短歌大会 4年10月4日(日) 10:00~ 常盤町自治会館  
講師 高嶋健一先生 出詠239首 参加約150人

碑前祭 4年10月18日(日) 10:00~ 千本浜公園歌碑前 参加約800人

## 文化行事

講演 4年6月6日(土) 14:00~ 記念館会議室  
講師 辻 真澄先生 「町名の由来を通し沼津を知る」

講演 4年6月14日(日) 14:00~ 常盤町自治会館  
講師 村松武司先生 「明石海人を語る」

朗読 4年11月7日(土) 18:30~ 記念館ラウンジ  
伊藤弘子さん 「よだかの星」「なめとこ山の熊」(宮沢賢治)

雑の歌会 5年3月6日(土) 13:30~ 記念館会議室  
講師 片山静枝先生 出詠94首 参加66人

講演 5年3月13日(土) 18:00~ 記念館ラウンジ  
山本信一郎先生 思い出の生涯学習「唱歌童謡の旅」

## 中学生短歌コンクール

募集 4年7月7日(火)~9月15日(火)

応募 376首(5校 376人)

入選短歌 特選10首 入選34首

碑前祭にて特選者を表彰、作品を披露

## 特別企画

明石海人文学展 —— 千本浜を愛した歌人

開催期間 4年6月9日(火)~7月5日(日) 記念館ラウンジ

入場者 2,000人以上

## 音楽イベント 記念館ラウンジ

松倉利之 パーカッションの妙技 5月9日(土)18:00~

夢鳴群 合唱コンサート 7月18日(土)18:00~

佐藤紀雄 シリーズ・日本のギタリストII 8月1日(土)18:00~

溝入敬三 コントラバス・ワンダーランド 12月12日(土)18:00~

共演・溝入由美子(オーボエ)

御喜美江 アンコール! 音楽の玉手箱 3月28日(日)18:00~

## 社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、社団法人牧水会という。
- 第二条 この法人は、事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の一一に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短歌文学の普及を図り、もって、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会及び文学講座の開催
- (4) 文学に関する各種出版物の刊行
- (5) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人の会員は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は法人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は法人
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、総会の議決をもって推薦された者
- 第六条 会員にならうとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。
- 第七条 この法人の入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 一〇、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 2 この法人の会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 年額 五、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 年額 一〇、〇〇〇円以上

〈理事長〉 林 茂樹  
 〈副理事長〉 大河原二郎 杉山光男  
 〈理事〉 上田治史 佐藤英之助 河本與司幸  
 浅井 治 保坂輝夫 田中和男 寺田桂子  
 川口和子 青木朝子 須永秀生 金子安夫  
 〈監事〉 四方一彌 八十濱俊一

## 編集後記

波瀾こえた牧水の白扇面について興味深く書かれた中尾先生の原稿。父親牧水と九州への旅に向う幼き頃の旅人館長の思い出。多くの社会的、文学的反響を呼び、成功裡に終了した「明石海人文学展」についての川口理事の記事。恒例の牧水祭の碑前祭・短歌大会・雑の歌会、音楽イベント、文化講座等の報告文。以上どれをとっても今回も面白く楽しく読めるものと思います。

なお、原稿を寄せられた方々、イベントに積極的に協力された方々に誌上をかりて厚くお礼申し上げます。  
 （佐野利夫）

